FREE
ご自由に お持ちください。

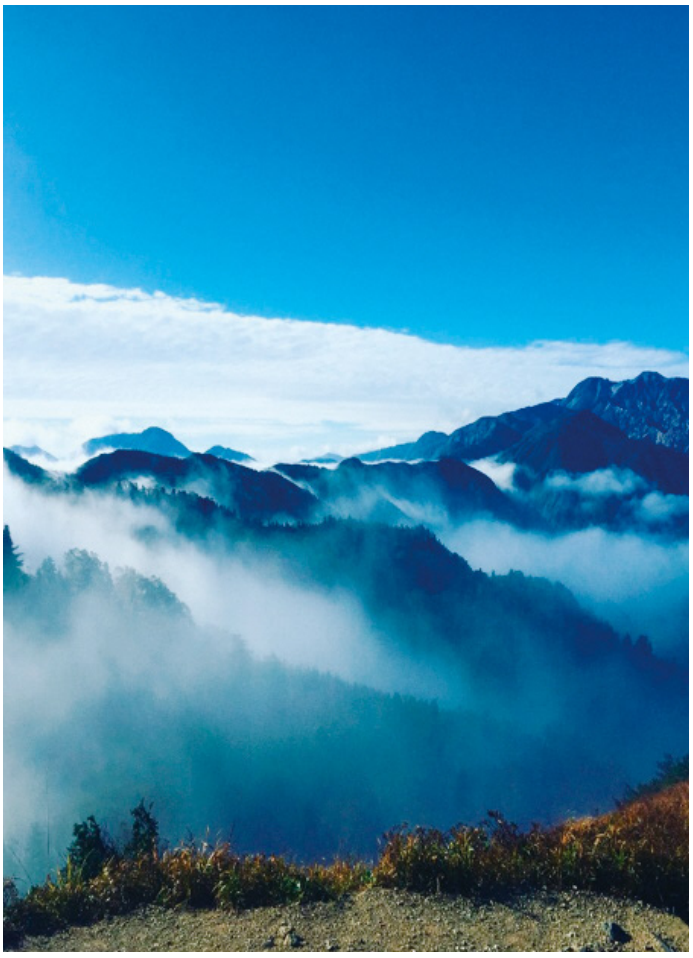
No.815
2021 August
8

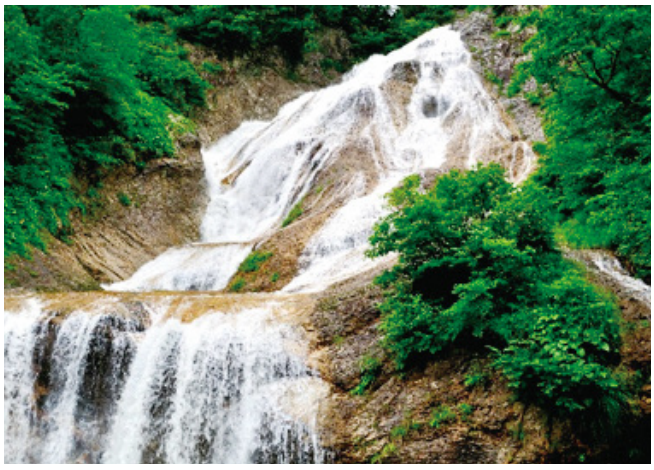
岐阜県の森林・林業

森林（もり）のたより

News of the forest

白山白川郷ホワイトロード
～涼しさを求めて～





●ホワイトロードのイベント情報は19ページをご覧下さい。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（9月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
9月4日㈯	**狩猟免許試験**	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時　間：9:30～17:00 ●申　込：7/30～8/13 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	岐阜大学全学共通教育講義棟 各地域を所管する県事務所、または環境企画課（058-272-1111 内線 2701）
9月30日㈭ 締め切り	**令和４年用 国土緑化・育樹 運動標語の募集**	令和4年用の国土緑化・育樹運動のポスター等で使用する標語を募集しています。	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 058-273-7577

目次 Contens

イベントカレンダー（一般向け）……2
岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムの取り組みを紹介します……3
保安林における制限……4
森の楽園：生活環境保全林の紹介「月見の森」……4
シリーズ：「住民主体の創意工夫ある森づくり・川づくり活動」……5
山の歳時記(192)　スイバ……6
山のおじゃまむし(361)　―運しだい、コクゾウムシ―……7
ぎふ木遊館通信……8
morinosプログラム紹介!!……9
地域のきのこ生産者 ～恵那地域編～……10
森林と人を活かす知恵(103)　ちょっと気をつけたいきのこ、テングタケの仲間……11
シリーズ：『森林・環境税』で"緑豊かな清流の国ぎふづくり"(4)……12
木の香るぎふの施設(101)　共生の森（障がい児・者デイサービス）……13
治山・林道技術成果……14
研究コーナー　岐阜県におけるヒノキ根株腐朽被害の特徴……15
普及コーナー　中濃地域の森林経営管理制度について……16
スマート林業通信(14)　林業のVRシミュレーターを導入……17
国有林の現場から(58)　飛騨森林管理署の取組について……18
「白山白川郷ホワイトロード」イベント情報……19
林業者向けお知らせ……19
市況……20

表紙●ホワイトロードのイベント情報は19ページをご覧下さい。

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムの取り組みを紹介します

当コンソーシアムは、産学官連携や海外連携により新たな技術の開発とその普及を図り、林業・木材産業の成長産業化を目指すため、平成26年9月に設置されました。現在は、林業・木材産業関係者を中心とした民間事業者のほか、学術研究機関、行政機関に至る111者（令和3年7月6日現在）により構成されています。

主な活動としては、会員間での共同研究開発活動や、外部講師を招いての交流研修の開催、ドイツ等における海外技術連携調査により得られた成果からの新たなビジネスへの展開や、県の施策形成につなげる要望活動等を行っています。

最も主要な活動である共同研究開発活動はテーマ別に4つの委員会で実施されており、今年度の活動計画は次のとおりです。

新たな森林経営委員会

森林経営管理法施行などに対応すべく、新たな森林経営に向けた取り組みを実施。

主な活動…

- 新たな制度・仕組みを自らの活動に活用するための研修会
- 効率性を意識しながら現場管理・設計ができる技術者の育成に向けた研修会

経営･体質改善研修会の様子

森林整備・育成委員会

造林・保育にかかる負担軽減など、課題解決に向けた取り組みを実施。

主な活動…

- ドローンでの資材運搬等、スマート林業による負担軽減に向けた検証
- 獣害対策及びその担い手育成の研修会
- 早生樹や生分解性ツリーシェルターの検証

ドローンによる資材運搬検証の様子

木材生産改善委員会

木材生産・路網開設の効率化に向けた取り組みを実施。

主な活動…

- 次世代型林業機械の導入・活用に向けた情報収集・研修会
- 木材生産現場の生産性・安全性向上のための改善計画の策定と実施をするプロジェクトや会員相互の現場視察研修会

林業用無人化機械開発試作機の実証試験の様子

木材利用拡大委員会

非住宅建築物等への県産材の需要拡大や、新たな製品・用途開発に向けた取り組みを実施。

主な活動…

- 非住宅建築物等への県産材を活用した製品・技術の開発と普及
- 改質リグニンについての情報収集・視察
- 木質バイオマスボイラー導入に向けた検討・先進地視察

スギ圧縮材を利用した新製品展示の様子

当コンソーシアムでは、これらの活動のほか、会員からの提案により様々な活動を行っていきます。詳細や活動報告についてはHP（https://www.forest.ac.jp/company/consortium/）において公開しておりますので、ご興味のある方はご覧いただき、お問合せについては事務局へお願いいたします。

▲コンソーシアムHP

【岐阜県森林技術開発･普及コンソーシアム事務局】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 0575-35-2535 岐阜県立森林文化アカデミー 森林技術開発･支援センター 産学官連携係まで

保安林における制限
～立木の伐採の制限～

必ず事前の手続きが必要です

保安林は、森林の機能を維持増進するために、森林整備には高率の補助制度が適用されるほか、県が治山事業として実施することもあります。

一方、立木の伐採方法や植栽方法など森林内での行為には制限や義務が課せられており、内容に応じて税制上の優遇措置がされています。

今回は、立木の伐採の制限について説明します。

伐採の制限について

伐採方法		手続き方法	手続期間	提出先
禁伐		伐採は禁止	―	―
主伐	択伐	天然林は許可が必要	伐採を開始する日の30日前までに申請	県農林事務所
		人工林は届出が必要	伐採を開始する日の90日から20日前までに届出	県農林事務所
	皆伐	許可が必要	皆伐限度面積の公表の日（年4回）から30日以内に申請	県農林事務所
間伐		届出が必要	伐採を開始する日の90日から20日前までに届出	市町村

注意事項

(1) 主伐（択伐・皆伐）は、市町村森林整備計画で定める標準伐期齢に満たない立木は伐採できません。
(2) 皆伐限度面積の公表の日は、2月1日、6月1日、9月1日、12月1日（土日を除く。）の年4回です。
(3) 間伐は、樹冠疎密度（林地面積に対する立木の樹冠投影面積との比率）が80%に達していない森林では行うことはできません。

伐採をする場合は、許可又は届出など事前の手続が必要です。また、皆伐を行う場合は、伐採現場に伐採旗の設置が必要となります。詳細は、各県農林事務所にお問い合わせください。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3163または3164)治山課森林管理係まで

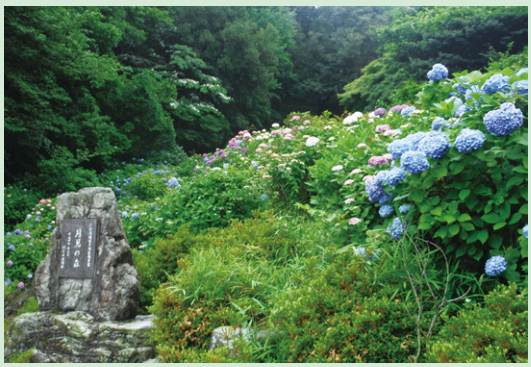
森の楽園
生活環境保全林の紹介「月見の森」

岐阜県には、治山事業で整備した生活環境保全林が32箇所あります。生活環境保全林とは、市街地の周辺に位置する保安林のうち、山地災害の防止等と併せて自然環境の保全・形成を目的として整備された森林です。治山ダムや花木の植栽等が行われ、保健休養や自然観察の場として、多くの県民の方々に利用されています。

より快適に楽しんでいただくため、生活環境保全林を管理する市町により、施設の増強や老朽化した箇所の改修などが取り組まれており、岐阜県では補助制度（集落環境保全整備事業）を設け、これを支援しています。

今回ご紹介する「月見の森」は、海津市南濃町の国道258号線沿い、養老山脈の麓に位置しています。面積約37.5haの区域内には遊歩道が整備され、従来の植生に加えてサクラやアジサイなど約1万1千本余りの樹木が植えられており、四季折々の花を楽しむことができます。また、「日本百名月」及び「日本夜景遺産」認定地として登録されており、258段の「月の階段」を登れば、展望スペース「月見広場」から濃尾平野を一望でき、散策後は隣接する温泉施設「水晶の湯」で身体を癒すことができます。

岐阜県では、今後もより多くの県民の皆様に安全にご利用いただくため、生活環境保全林の整備を応援してまいります。



シリーズ

「住民主体の創意工夫ある森づくり・川づくり活動」

県では清流の国ぎふ地域活動支援事業（清流の国ぎふ森林・環境税活用事業）により、各種団体等が自ら企画・立案・実行する創意工夫ある森づくりや川づくり活動を支援しています。

こうした団体の活動内容について、連載でご紹介します。

明宝ジビエ研究会

●設立年
・平成26年

●設立目的
・明宝地域の山の幸の食材として獣肉を改めて見直し、明宝の豊かな自然を守り引き継ぐためにも、ジビエに係わる多様な情報共有、発信活動をすることで、明宝地域の将来に向かってより活力ある地域づくりを進めるとともに、明宝地域の獣肉の利活用を目的とする。

●主な活動分野・活動内容
・解体処理施設ジビエ工房めいほう（平成27設立）を活用した猪や鹿の解体処理や、副産物の利活用など消費のエコサイクルを目指して活動
・地元でのふる里教育、山林保全授業、狩猟と生物多様性授業の実施や、里山間伐材整備などのボランティア活動、地域への移住者誘致、将来の地域の担い手の育成などを実施

●令和3年度地域活動支援事業名
・明宝の森とエコサイクル推進事業

●事業内容
5月　整備が必要な場所を下見し安全講習（久須見城跡山頂）
7月　里山林整備／整備した木材を搬出
10月　炭窯整備／搬出した木材を炭用材として加工、ネイチャーキャンプ（森のいろいろな生きものを探る！森林散策と間伐材を使って木工クラフト）

●事業目標や事業効果
・地域の里山林が整備され山頂の見晴らし、環境の改善が図られる。
・地域文化財の保全と昔仕事（炭焼き）の継承
・狩猟文化の周知やその文化の継承
・間伐材を搬出し、炭焼き体験→里山で捕獲し衛生的に処理したジビエ肉をその炭で食する等、命の循環と生物多様性、森の保全などエコな消費サイクルを体験してもらい、自分たちのあり方や未来を考えるきっかけづくり。

●その他
10月9、10、11日には、搬出した間伐材を活用し、炭窯を修繕・火入れ、拾ってきた松ぼっくりなどを使い花炭を作るなどのネイチャーキャンプを予定しています。ぜひご参加ください。

問い合わせ先
明宝ジビエ研究会　TEL：0575―87―2020

川合まちづくりの会

●設立年
・平成29年

●設立目的
・川とともに育まれてきた地域の歴史と文化を継承し、世代間が交流し合い絆を深め、人のつながりを大切にする活気あるまちの形成に寄与する。

●主な活動分野・活動内容
・美濃加茂市川合地域において水辺環境を整備し、川に親しめる場所と機会を提供する。

●令和3年度地域活動支援事業名
・子どもたちに引き継ぐ川づくり推進事業

●事業内容
・雑木や竹林の整備及び不法投棄等のゴミを撤去して平場や雑木等を活用した遊び場や水辺に近づける環境を作り、子どもたちに川や水に親しんでもらう親水教育を進める。ボート・カヌー等の水上スポーツに親しむ環境と機会を提供し、スポーツ振興や健康増進を図る。

●事業目標や事業効果
・地域の木曽川沿いの水辺の整備をし、環境改善を図る。
・子どもたちに川や水に親しんでもらう親水教育を進め、自らが水辺環境の保全をする重要性の理解を図る。
・地域住民の集いや憩いの場となり健康・福祉の維持増進や親睦及び交流が図られる。

●その他
・竹林や雑木を伐採し平場を作り活用できるよう進めており子どもも大人も楽しめるカヌー・ボート教室も開催します。
・川に親しめる楽しみを共有できる方を募集しています。

問い合わせ先
川合まちづくりの会　渡邉（ワタナベ）
TEL：090―5031―4933

山の歳時記 192

YAMA NO SAIJIKI

スイバ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「その葉で10円玉を擦ると、ピカピカになるよ」

スイバを前に子どもたちに10円玉擦りに挑戦してもらいました。

スイバ（Rumex acetosa）はタデ科ギシギシ属の多年生草本で、北海道から九州各地の道端など酸性化した土壌に多く生えています。

葉は長楕円形で根葉は長い柄があり、高さ約80㎝になる茎には縦の稜線があり、紅紫色を帯びます。茎につく下部の茎葉には短い葉柄があり、上部の葉は茎を抱くようについています。

初夏には茎の先が分岐して花軸を出し、穂状に淡緑色または緑紫色の小花を密生させます。雌雄異株で雄株は黄緑色の雄花を、雌株は赤色の雌花を咲かせますが、その性比は雄株が約3割、雌株が約7割とされます。秋に落ちた種子は芽生えると葉を放射状に広げて越冬するため、生育期間は11月頃～翌年の9月頃までです。

スイバは「酸い葉」が和名の由来で、スカンポ、スカナ、スッカッチョなどの別名でも呼ばれます。属名のRumexは古いラテン語で「槍（やり）」を意味し、スイバの葉が矢尻の形をしていることに由来し、種小名acetosaは「酸っぱい」を意味します。ちなみに中国では漢字で「酸模、蕎」と記されます。

スイバの酸味は野菜などのアク（えぐ味）の成分の一つのシュウ酸で、多量に摂食すると消化器粘膜を刺激して炎症を起こし、体内でカルシウムと不溶性の化合物となってカルシウムの吸収を妨げます。また体内で生成されるシュウ酸カルシウムは、結石として腎臓や尿管等に障害を発生させることもあります。

ウシなどの偶蹄目はシュウ酸を第一胃内の細菌（Oxalobacter formigenes）で分解するため、日常的にシュウ酸を含む植物を少しずつ摂取すると、第一胃内でのシュウ酸分解能が高まってシュウ酸吸収量は少なくなる特性があります。

シュウ酸の命名の由来にもなった漢字の「蕎」はスイバを意味し、タデ科（イタドリなど）やカタバミ科、アカザ科（アカザ、ホウレンソウなど）は水溶性シュウ酸塩（シュウ酸水素ナトリウムなど）で、サトイモ科（サトイモ、ザゼンソウ、マムシグサなど）は不溶性シュウ酸塩（シュウ酸カルシウムなど）です。

水溶性シュウ酸は水にさらしたりしてアク抜きすれば食べても害はなく、スイバも和え物やお浸し、一夜漬けに利用されました。ヒメスイバの仲間は英語でSorrel（ソーレル）、フランス語でOseilles（オゼイユ）と呼ばれ、フランス料理などでは肉料理のつけ合わせやサラダ、スープ、肉料理のソースに用いられます。

酸化した10円玉はスイバの水溶性シュウ酸でピカピカになったのです。

▲スイバの根は黄色で細かく枝分かれしています

山のおじゃまむし

ー運しだい、コクゾウムシー【第361回】

自然学総合研究所　野平 照雄 ● *Teruo Nohira*

今回もコクゾウムシの話。と言うのはこの2年半で3回も登場するからである。ゾウムシ大好き人間の筆者が、なぜ今まで題材にしなかったのか。自分でも不思議に思えてくる。かつてコクゾウムシはコメの大害虫で、どこの家でも見られた。私自身、米袋や米びつで大発生しているのを何回も見ている。しかし、野外で見たり、採集したのはわずか17匹である。それがなぜ時々大発生するのか。不思議だった。昆虫図鑑や文献を調べても、はっきりしたことは書いてない。そのうちにコクゾウムシはどんな生活をしていて、いつ大発生するのか、自分の目で確かめたくなった。胸が熱くなり、マグマが活動を始めた。しかし、採ろうとするといない。これは、運しだい。運が良ければ手に入るのだ。その運を待つことにした。半年後、「空き家にこの虫が大発生したのですがーーー」と知人が訪ねてきた。コクゾウムシであった。「運が来た」と喜んだものの、すべて死亡してしまったとのこと。床上で死亡している残骸の写真を見せてくれた。がっかりした。それから4か月後の9月、今度は同じ職場のS氏の家で大発生。玄米の入っている袋を開けたら、中にはものすごい数のコクゾウムシがいたという。すぐにビニールシートの上で天日にさらしたところ数日でいなくなったとのこと。しかし、私がこれを聞いたのは5日後。今はまったく見ることができないという。また運に逃げられたと落胆した。しかし、そうではなかった。2週間後、「これプレゼント」と言ってS氏から瓶を渡された。中にはコクゾウムシがいた。S氏は私の気持ちを察し、採っていてくれたのである。コクゾウムシを見ているうちに、爆発寸前だったマグマが噴火し始めた。

×　×　×　×

コクゾウムシは28匹いた。元気よく動いている。まず増やさなければならない。飼育瓶に玄米を半分くらい入れ、ここで飼育を始めた。はじめは玄米の上や容器の側面を上り下りしていたが、そのうちにいなくなってしまった。玄米の中へ潜り込んだのである。これを机の上に置き、常に観察できるようにした。と言っても姿は見ることができない。時々、数匹を目にするだけなのである。何日も姿を見せないと、死亡したのではと心配になり容器を逆さまにして確かめた。冬が来た。コクゾウムシの姿はまったく見られなくなった。春になり暖かくなった。3月下旬ころから活発に動き始めた。数は20匹以上。まだ増えてはいない。それが6月中旬にはたくさんのコクゾウムシ。玄米の上を動き回っているのである。「新成虫だ!」と胸が躍った。数は百匹以上。米粒の中には幼虫もいる。嬉しくなった。

×　×　×　×

逆算すると3か月ほどで成虫になったことになる。このまま行くとまだまだ増える。さらに飼育容器や大きな密閉式プラスチック箱を増やし、新成虫を入れていった。2か月後の8月、新しい飼育容器には成虫はいなかったが、前の容器からは次々と発生してきた。それがいつまでも続くので、もしかしたらこの時期に発生している成虫は、前の親の子供が産んだ子供、つまり孫虫も混じっているのではないか。そんな気がしてきた。9月になると新しく増やした飼育容器からも発生し始め、11月にはものすごい数になった。こうなると虫だらけで、管理が大変だ。蓋をあけてもたもたしていると一斉に逃げ出す。観察中よく逃げられた。数は数百匹。しかし、この程度なら人目につかないので問題ない。それがある日、容器の蓋を閉め忘れた。翌朝、部屋中虫だらけ。床や壁を動きまわり、干してある衣類にもたくさん着いていた。「しまった!」。同時に家内の顔が目に浮かんできた。これを見ればどうなるか。結果はわかっているので必死に掃除機で吸い取り、雑巾で床や壁をふき取った。

×　×　×　×

昆虫類は多くの生き物の餌食となっている。このため知恵を出して生き残り戦術をとっている。その一つがたくさん卵を産むこと。食べられても、食べられても、それに耐えられるくらいの卵を産んで子孫を残しているのだ。これをコクゾウムシで実感した。わずか28匹が2年後には数10万、いやそれ以上かも知れない。とにかくすごい数になったからである。どれくらいか。この数が気になったので、こんな計算をしてみた。最初は28匹。半数が雌として14匹。この雌が1匹200個の卵を産むと、次の世代は2800匹。このうち1,400匹が雌なので28万匹となる。同じように計算すると次の世代が280万匹となり、さらに次の世代になると2億8千万匹にもなる。これが繰り返されるのだから、とにかくものすごい数になる。大発生して当然だと思う。しかし、家屋で大発生するのは時々である。それがすぐにいなくなる。餌となるコメはほとんどの家庭にある。それにコクゾウムシは小さいので、どこからでも侵入できる。それなのに被害は起きない。何故か。このことに興味があるので、引き続き飼育を続けたいと思う。

▲こんなにふえたこどもたち

ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館では、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、開館しています！

＜木育ひろばに『木遊山（もくゆうざん）』が登場！＞

岐阜市の緊急事態宣言に伴う臨時休館期間（5/24 ～ 6/20）が終わった6月21日、木育ひろばに新しく滑り台型木製遊具が登場しました。

愛称は『木遊山（もくゆうざん）』。

ヒノキ合板（ぎふ証明材）を主材とし、山をモチーフとしています。ぎふ木遊館の木育ひろばは、飛山濃水の地形変化（ランドスケープ）を空間内に表現しており、そこに“ひと山”加わった形になります。さながら、みなさんの家の近所の裏山でしょうか。

さっそく子どもたちに大人気。みんな思い思いの滑り方で、体いっぱいで楽しさを表現して遊んでいました。

なお、この滑り台型木製遊具は、㈱岐阜バイオマスパワー様と、㈱バイオマスエナジー東海様から寄贈いただいたものです。

＜ギャラリー企画展『水源の里の恵みいっぱい 白川町展』＞

6月24日から7月11日まで、当館ギャラリーで白川町と連携した企画展を開催し、多くの来館者にご覧いただきました。

白川町生まれの木のおもちゃ『つみマスくみマス』をはじめ、木枡、ミニ洗濯板、ネクタイピン、学習机など、ヒノキを活かした木製品の展示はもちろんのこと、白川茶、美濃白川ハム、グリーンツーリズムなどなど、『水源の里』白川町の魅力を伝える展示となりました。「夏休みに白川町の川へ遊びに行ってみたいわ」とパンフレットを手に取るお母さんもみえました。

また、白川町では林業を目指す方を受け入れ、水源の里の森林を守り育てる林業後継者を育成する取組に力を入れており、ポスターや動画で PR しました。なりきり写真コーナーでチェーンソー（おもちゃ）を構える子どもたちも楽しそうでした。

ギャラリー企画展を当館と連携して開催したい市町村、木育実践団体等の方がいらっしゃいましたら、ぎふ木遊館企画運営係までご相談ください。

ぎふ木遊館のご利用予約は、ＷＥＢ予約システムに移行しました。

予約方法・注意事項等の詳細については、当館ホームページの「ご利用時のお願い」ページ（右の二次元コード）をご覧ください。

※団体利用については、これまで同様、お電話でお受けしております。

電話：058-215-1515（木遊館へ「行こー！行こー！行こー！」と憶えてください）

二次元コード

やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介！！

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター（愛称morinos）で実施しているプログラムについてご紹介します！今回は、自然観察、森遊び、森林文化体験、林業体験、スポーツ&レクリエーションなど多くの切り口で森を楽しむためのレンタルセットについてご紹介します。ぶらっと遊びに来て使える、レンタルセットを無料でお貸ししています。みんなで森を楽しんじゃおう！

▲棚を見るだけでもワクワクします

morinosの入口には「森を楽しむレンタルセット」の看板を掲げた棚がドーンと置かれています。「これなにー?」「使ってもいいの?」のお声を聴くとスタッフがすかさず「いいよー、何がしたい?」と返事をします。人気があるのはやはり「火起こし」やお湯が沸かせる「ケリーケトルセット」など、火に関わるものです。

火おこし

一番人気の「火起こし」は、最近人気のテレビ番組でもよく見るとのことで、皆さん興味津々です。たき火は、森の恵みである薪と生活に欠かせない火を体験でつなげることのできる重要なプログラムですが、「火起こし」によって、最初の火をつけることがこれほど大変なのか、と今の生活の便利さを感じることができます。3人以上で火を起こすため、チームビルディング的な要素もあります。

「災害などの時にもこの経験は役に立つかも」という声も印象的でした。

▲大人も真剣にやっています

▲形も気になるケトル

ケリーケトルセット

「マツボックリ2個でお湯が沸きます」という謳(うた)い文句で紹介している「ケリーケトル」という野外用のヤカン。中央が空洞になっていて下側の皿部分で燃えた炎がトンネル効果で全体を効率よく温めます。

小枝や枯葉、マツボックリなどでもお湯が沸くので、「どんなものがよく燃えるのかな?」と、森の中で燃えやすそうなものを探すのも森との距離を近づける仕掛けの一つです。

お湯が沸いたらご持参されたコーヒーや紅茶などでほっと一息つくのも楽しいですね。

このほかにも、「薪割り」「ハンモック」「バードウォッチング」「くぎひろい」「葉っぱのシャツづくり」「虫とりマシーン」「木の高さをはかる」「石あわせ」「森の絵本」「森の聴診器」などたくさんあります。ぜひ、morinosに来て使って楽しんでください。

こうした体験はmorinosのHPで開催をお知らせしています。新型コロナウイルス感染防止対策の状況により実施しない場合もあります。

興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YOU TUBEをご覧ください。

ホームページ　https://morinos.net
YOU TUBE　検索「morinosチャンネル」
開所時間　10:00~16:00
定休日　毎週火･水曜日

morinosHP
YouTube「morinosチャンネル」

地域のきのこ生産者
～恵那地域編～

農業生産法人(株)ナチュラルプランツ 代表 土屋 守さん（中津川市）

きのこ類をはじめとする「特用林産物」の生産額は、岐阜県の林業産出額の約4割を占めるなど、山村地域の重要な収入源となっています。

また、きのこ類の生産資材である「原木」や「木材チップ」などは岐阜県の森林資源のうち、広葉樹の主要な需要先の一つとなっています。

一方、近年、産地間競争の激化や、外国産菌床の増加による販売価格の下落に加え、生産資材の価格高騰、後継者不足など、県内のきのこ類生産者を取り巻く環境が深刻な状況となっています。

そのような中、さまざまな工夫や努力を行いながら県内各地できのこ生産に取り組んでいる方々をご紹介していきます。

（紙面や取材の都合上、一部の方のご紹介となることをご容赦ください）

Q1 何を生産されていますか？

A1 菌床しいたけです。

Q2 栽培拠点は？

A2 日本で初めてシクラメンが導入された地として栄えた中津川市の南西に位置する「阿木地域」と、長野県木曽郡の御嶽山のふもとに位置し、木曽ひのきの産出地である「王滝地域」の2カ所を栽培拠点としています。

生育棟内にて、土屋代表

Q3 栽培に取り組まれてどれくらいになりますか？

A3 しいたけ栽培の前には水稲栽培をしていましたが、十年ほど前から菌床しいたけ栽培を専業に取り組んでいます。

Q4 栽培方法を教えてください

A4 阿木地域と王滝地域で、それぞれ異なる栽培方法で生産しています。

阿木地域では、標高800mという寒暖差の激しい気候を活かし、春から夏は自然温度で菌床を培養し、秋の気温の温度差・低下を刺激として、9月頃から翌年の4月頃にかけてしいたけを発生させる自然に合わせた栽培を行っており、一方、王滝地域では温度・湿度を制御できる空調設備を利用して、年間通じしいたけを発生させています。

Q5 主な出荷先を教えてください

A5 当社は市場には卸しておらず、主に岐阜県・愛知県・長野県の地元スーパーや外食店へ出荷しています。

また、近年海外から輸入された菌床から育てたしいたけの国内での出荷が増加しているため、それらとの差別化、安全・安心なしいたけである証として、当社で出荷するしいたけには「原産地(収穫地)」に加え「菌床製造地」も商品に表示しており、消費者へより正しい情報の提供、産地に対する関心の向上を期待しています。

阿木地域の培養兼生育棟（培養中）

Q6 生産の特徴は？

A6 当社では、生産工程における食品安全、環境保全、働く従業員の労働安全に配慮した持続可能な経営の国際的な基準である「GLOBAL G.A.P.」を5年前から取得、さらには、今年から環境負荷の低減に向けた栽培に対し与えられる「有機JAS」を取得しました。

具体的には、菌床の原材料となるオガコには国産の広葉樹使用を徹底、有機JAS用の栄養体を調達するほか、生育期間中には棚ごとに生育状況の記録・栽培管理を行っています。

また、栽培に使用した菌床は栽培後そのまま廃棄するのではなく、粉砕したものを地域の農家さんへ提供し、土壌改良用の資材として再活用を図り、廃棄物の削減、資源の循環に取り組んでいます。

Q7 最後にPRをお願いします

A7 安全・安心なしいたけを供給していくうえで、第三者による認証は当然ながら、自らの栽培経営・生産管理に対し、継続的な改善を積み重ねることが重要と考えています。

出荷先・消費者からより喜ばれ、今後も供給してほしいと思われるよう、品質の向上を図って参ります。

取材を受けていただき、ありがとうございました。

【県産材流通課　時任大樹】

ちょっと気をつけたいきのこ、テングタケの仲間

岐阜県立森林文化アカデミー　教授●津田　格

まだまだ暑い日が続きそうですが、ツクツクボウシも鳴き始め、秋の足音が近づいています。以前（2018年7月）のこの欄で、初夏に発生するきのこについてお伝えしましたが、暑さが落ち着いてくると、それらのきのこが再び顔を出し始めます。今回は夏の前後（初夏、初秋）に見られるきのこの代表グループであり有毒のものも多いテングタケ類（テングタケ科のきのこ）を少し紹介します。

テングタケ類はほぼ全てが樹木と共生している菌根菌です。多くは広葉樹のブナ科やカバノキ科、針葉樹のマツ科などの樹木と共生しており、それらの根と菌糸が繋がってできた「菌根」を通して栄養のやり取りをしています。コナラやアベマキ、アカマツが多い里山林や、シイやカシ類が多い神社やお寺の裏山でこの仲間に出会うことが多いでしょう。

テングタケ類は比較的見分けやすい特徴を持っています（図1）。丸い傘（平らに開くものが多いですが、丸い山型や真ん中が凹むものもあります）、まっすぐ伸びる柄、そしてその柄の根元には膨らみ（つぼ）があります。また大半の種類はさらに柄の途中に刀の鍔のような膜（つば）を備えています。「つば」を持たない種類もありますが、「つば」と「つば」の両方を備えている場合はこの仲間とみなしてほぼ間違いありません。「つば」の有無、それぞれの器官の形や色などが名前を調べる際の決め手になってきます。有毒種が多いため、きのこに興味を持っている人は特徴をおさえておくと良いでしょう。以下に代表種をいくつか紹介します。

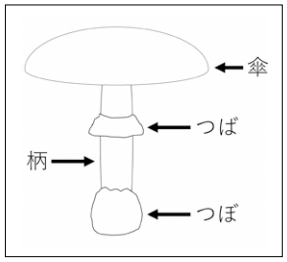


図1

●テングタケ（写真1）

写真1　テングタケ

コナラなどの里山林で見かけることのあるテングタケ類の代表種です。傘が茶色で白いいぼがあるのが特徴です。アカマツが混じった林ではイボテングタケという近縁の大型種も発生します。またシラカンバ林に発生する近縁種で傘が赤いベニテングタケは毒きのこのモチーフとなっているため、知っている方も多いと思います。これらはいずれも有毒ですが、致死的ではありません。毒の主成分のひとつはイボテン酸というアミノ酸の一種で強い旨味を持っています。調味料としての利用も研究されたそうですが、如何せん毒成分そのものなので実用化は無理だったようです。またこのイボテン酸とその分解産物のムッシモールという成分はハエを殺す作用を持っており、かつては台所などにこれらのきのこを置いてハエを捕殺していました。この用途からテングタケを「はえとり」、ベニテングタケを「赤はえとり」と呼ぶ地域もあります。

●ドクツルタケ、シロタマゴテングタケ（写真2）

写真2　シロタマゴテングタケ

猛毒きのことして有名なこれら2種はいずれも色は真っ白で、つばとつぼがある典型的なテングタケ類の形態をしています。誤食した場合、すぐに病院で適切な処置をしてもらわない限り、まず助かりません。食べて6～7時間すると腹痛や下痢、嘔吐などの症状が現れ、その後1～3日間の間に肝臓や腎臓などの細胞が破壊されて死に至ります。初期症状が出るまでに時間がかかるため処置が手遅れになる場合が多く、極めて危険なきのこです。古くから知られる猛毒きのこですが、平成の時代にも誤食による悲しい死亡事故が絶えていません。毒成分は環状ペプチドという複雑な化学構造を持つアマトキシン類、ファロトキシン類と呼ばれるものです。色と毒の間には直接の関係はないと思いますが、真っ白のテングタケ類は要注意です。

写真3　タマゴタケ

代表的なテングタケ科のきのこを紹介しましたが、この仲間には他にも様々な種が存在します。有毒種が多いので正確な同定が必要ですが、以前紹介したタマゴタケ（写真3）など優秀な食用きのこも存在します。

コロナ禍の中、人ごみを避け、野山を散策する人も多いと思います。足元に気をつけて歩いていると多くのきのこに出会うことでしょう。有毒のきのこであっても、その多くは食べない限りは危険ではありません（カエンタケなどの例外はあります）。きのこは一期一会。必要以上に怖がらず、せっかくの機会ですのでじっくりと観察してみてください。

※毒きのこについて書かれている書籍は多々ありますが、以下のWebサイトなどでも情報を得ることができます。一度ご覧になってください。

・厚生労働省
自然毒のリスクプロファイル
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/syokuchu/poison/index.html

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

4

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

生物多様性に配慮した地域づくり普及推進事業

【事業目的】

県民の皆さんや企業、民間団体などの各種組織が自主的に生物多様性の保全・再生について行動していく社会づくりを目指すため、外来生物の脅威や種の多様性の保全等について普及啓発します。

【事業内容】

大きく分けて２つの取り組みを行っています。

●生態系に悪影響を及ぼす特定外来生物の脅威や県内に生息する希少野生動植物の保全、生物多様性の普及啓発に関する生物多様性シンポジウムの開催等。

→シンポジウムでは「希少野生生物ハリヨ」や「人間により持ち込まれた生物による危機・外来種の対策」等をテーマに開催してきました。

●イタセンパラ※を活用した生物多様性に関する普及啓発や県水産研究所におけるイタセンパラの増殖と木曽川での試験放流。

→イタセンパラを活用した普及啓発は小学校での水槽展示を中心に行い、令和2年度には約100名の児童が参加して生物多様性についての理解を深めました。

生物多様性シンポジウム

イタセンパラの水槽展示

※**イタセンパラ**：岐阜県レッドデータブック絶滅危惧Ⅰ類。ワンドと呼ばれる河川敷内の池、灌漑用のため池や水路など流れの穏やかな水域に生息する魚。県内では、かつて美濃平野部の各河川に生息していましたが、現在では数か所で確認されるだけとなっています。

木の香るぎふの施設 101

内装木質化

共生の森（障がい児・者デイサービス）

土岐市駄知町８９３−７

施設全景（撮影：ToLoLo studio）

施設概要

事業年度	令和元年度
事業主体	社会福祉法人　共生
構造 延床面積	木造２階建　延床面積 497㎡ 内装木質化面積　255㎡
施設用途	福祉施設（障がい児・者デイサービス）
木材使用量 使用樹種	5.28㎥ スギ（県産材100%）
全体事業費	148,500千円
補 助 額	2,550千円
設 計 者	有限会社　タイプ･エービー
施工業者	株式会社　岡山工務店
工　　期	令和元年８月～令和２年２月

ラウンジ
（撮影：ToLoLo studio）

放課後利用の様子

施設の経緯

障がいを抱え介護を要する方に対し、日常生活支援や身体機能･生活能力向上のための援助等を行うことを目的に令和元年度に新築したデイサービス･多機能型事業所です。

東濃地区初となる重い障がい（医療行為等要する）を持った方が通える施設です。また、広く地域住民交流の場となることを目指し、共有スペースを開放しています。

施設を利用する方が木の温もりを感じ、快適に生活できるよう県産材を活用し内装の木質化を行いました。

生活介護スペース
（撮影：ToLoLo studio）

デイサービス
スペース

ここに注目！！

建物内のほぼ全室で床、壁が木質化されており暖かみのある空間となっております。

利用者の様子

施設を利用する方が木の温もりを感じながらゆったりと気持ちいい空間を楽しんで過ごされています。

■問い合わせ先
社会福祉法人　共生
TEL 0572-50-1180

治山・林道技術成果

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究等の取り組みを行っています。令和3年2月に行われた発表会で発表された取り組み成果を紹介します。

～郡上市八幡町西乙原字樫ヶ平地内における治山施設災害復旧事業について～

中濃農林事務所　松原　智

はじめに

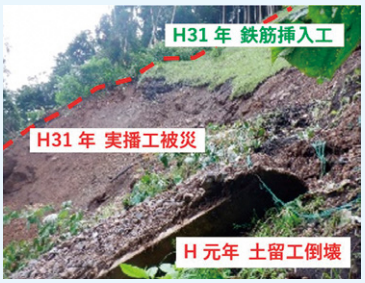
令和2年7月、郡上市西乙原字樫ヶ平地内において山腹崩壊が発生しました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、崩壊箇所には既設の治山施設があり、近接する施工地を含めて被害を受けました。この崩壊に対して行った治山施設災害復旧事業への流れを紹介します。

災害の概要

本地区では7月の累加雨量が1016㎜となり、記録的な大雨となりました。令和2年7月26日、予防治山事業(令和元年度)で施工した山腹工の法頭付近で崩壊が発生し、施工地内にあった土留工(ブロック積)が倒壊し、更に隣接する施工地も被災しました。崩壊土砂は平成30年度に設置した高エネルギー吸収落石防護柵が捕捉したため、下方の主要地方道大和美並線には被害はありませんでした。

しかし、不安定な土砂が斜面上にあるため、道路管理者である郡上土木事務所は安全が確保されるまで通行止めとしました。

▲被災箇所全景

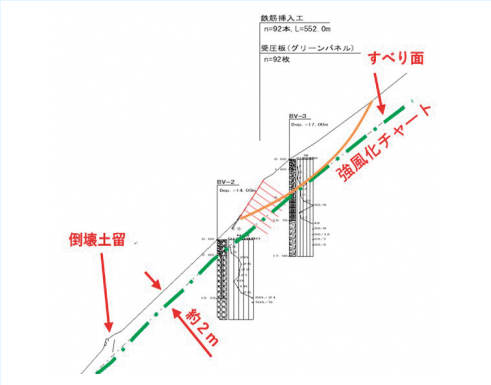


▲黄色矢印箇所を望む

復旧方針

本被災箇所の状況と既存の鉄筋挿入工を考慮して復旧方法を検討しました。オレンジ色で示す線は、鉄筋挿入工の長さを決定する際に想定した円弧すべりです。緑の一点鎖線で示す線が礫層と強風化砂岩を示しています。倒壊した土留工の基礎は、約2ｍの礫層に乗っていたことがわかります。以上から、強風化チャートの上がすべり面(緑一点鎖線)と考え、復旧計画を策定しました。

治山施設災害復旧事業を申請するにあたり、「原形復旧」とすれば、土留工を計画しますが、不安定な層があることから土留工による復旧は困難または不適当と判断し、「鉄筋挿入＋法枠工」で申請することとしました。



▲縦断図

復旧計画

最上部は、令和元年度施工と同じ鉄筋挿入工(4・9ｍ)とし、最上部以外は、縦断図で示した2ｍの礫層を抑えるため鉄筋挿入工(2・9ｍ)、礫層1ｍ以下の範囲においては現場吹付法枠工を計画しました。

まとめ

今回の治山施設災害復旧事業を受けるにあたり、以下の重要なポイントがありました。①被災した施設の確認のため既存治山施設の台帳管理が重要、②災害復旧事業は申請主義のため、申請しなければ対象であっても後で追加できないので、申請内容の漏れ防止が重要、③災害応援協定に基づく応急仮工事について、維持工事以外であれば認められる可能性があるため、事前に確認することが重要、④復旧見込み事業費について、早期に事業費の照会があり、設計未確定での報告となり過少報告すると事業費に縛られ申請内容に影響が出てしまうため、できる限り設計を早期に進め、事業規模を把握することが重要。

最後に、災害はいつ起こるかは分かりません。今回の事業化へ向けた流れを参考にしていただき、今後の業務に役立てていただければ幸いです。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-4011
中濃農林事務所まで

岐阜県におけるヒノキ根株腐朽被害の特徴

森林研究所●片桐 奈々

ヒノキ根株腐朽被害について

ヒノキ根株腐朽被害は、木材腐朽菌が生立木に感染することで根株部分が腐朽する被害です。本誌811号では、県内各地の被害実態を調査して被害発生状況と対策について紹介しました。今回はその調査で明らかになった県内の被害の特徴を紹介します。

岐阜県におけるヒノキ根株腐朽被害の病原菌の侵入口

これまで他県では、ヒノキ根株腐朽被害は、主に根の傷から菌が侵入すると考えられていました。ところが今回の県内調査で病原菌の侵入口を調べてみると、岐阜県では被害木の約7割が、地際の樹幹傷から菌が侵入していました（図1左）。残りの3割は侵入口をはっきりと特定できず、根等から侵入したと考えられました（図1右）。菌の侵入口となった地際の樹幹傷には、昆虫の食痕、シカやクマによる剝皮傷、落石傷、原因が特定できない傷がありました。また、これらの樹幹傷ができると、7割以上で腐朽被害が発生することがわかりました。

図1　ヒノキ根株腐朽被害
左：菌の侵入口が樹幹傷の腐朽被害
右：侵入口が不明な腐朽被害（根等が考えられる）

新たな樹幹傷由来の腐朽被害を発生させないためには

今回の結果から、新たな樹幹傷を防げば、被害を予防できると考えられます。間伐等の施業の際、残存木を傷つけないよう伐採・搬出作業を丁寧に行う必要があります。また、シカやクマが多い地域では、獣害防止対策を実施することが、ヒノキ根株腐朽被害の予防につながる可能性があります（図2）。

図2　シカの剝皮傷が侵入口となった腐朽被害

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

中濃地域の森林経営管理制度について

■中濃農林事務所　林業課　土屋 幸弘

中濃地域の森林経営管理制度の取組状況については、昨年9月号でご紹介させていただいたところですが、今回は、その後の取り組みについてお伝えします。

関市の取り組み

昨年度までの取り組み

令和元年度は、森林簿やCS立体図、傾斜区分図、地籍調査の有無等様々な要因から、まず始めに意向調査に取り組む地域として、人工林が多く、かつ地籍調査が進んでおり所有者の特定がしやすい旧上之保地域を選定しました。

令和二年度は、意向調査の内容等の検討を行い、12月に上之保地区のうち鳥屋市地域の森林所有者98名（対象森林面積93・6ha）に意向調査票を送付しました。

結果、31名（面積13・8ha）から市に管理を任せたい旨（事業体への紹介可）の回答が得られました（総回答数は54名）。

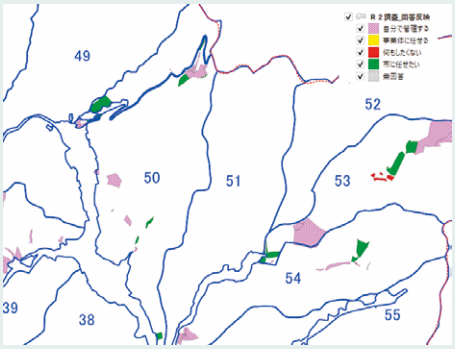


図1　関市意向調査の結果（一部抜粋）

今年度の取り組み

関市では、まずは、林業事業体が森林経営計画を策定（新規策定または既存計画への取込み）して施業を実施することを考えています。

しかしながら、管理希望のあった森林は点在していることから経営計画に取り込めない森林も出てくることが予想されます。

そのような森林は、既存補助事業の活用や新規補助事業の創設により林業事業体による施業を行うこととしています。

いずれの場合も施業は四年度以降の実施となります。

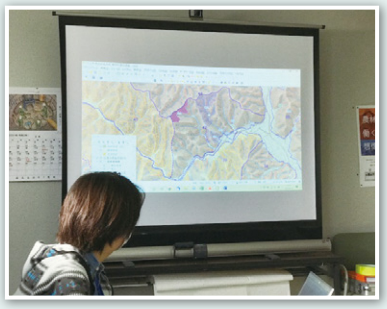
また、来年度までの意向調査の実施個所（上之保行合、武儀地区）は決まっていますが、それ以降の実施個所については未定です。

よって、箇所選定のための調査を行い、今後の意向調査の方針を定めたいと考えています。

美濃市の取り組み

昨年度までの取り組み

美濃市では、令和元年度に地域林政アドバイザーの鈴木章氏を中心にした任意委員会を設置し、意向調査実施の候補地を3地区選定しました。



▲地域林政アドバイザー平井和子さんによる関市及び森林組合への説明

二年度は、任意委員会を美濃市森の環境づくり推進委員会の森林経営管理制度検討部会として位置づけ、毎月、美濃市の森林経営管理制度運用について検討を重ねてきました。

部会では、今後の美濃市の方針を示す「美濃市森林経営管理制度実施方針」を定めました。また、意向調査については、昨年度に選定した3地区の中から、まずは境界が明確である蕨生中山地区で行うこととしました。

▲美濃市森林経営管理制度検討部会

地区の森林所有者27名に調査票を送付した結果、21名（38・19ha）から森林整備の希望がありました（天然林を含む）。

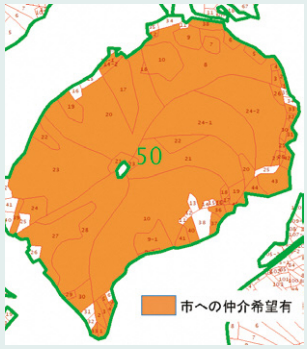


図2　美濃市意向調査結果

今回の意向調査実施箇所は、一つの林班内に収まっており、森林経営計画の新規作成が可能と考えられることから、森林経営管理権の設定は行わず、森林所有者から林業事業体への委託を市が仲介することで施業を実施することとしました。

今年度の取り組み

今年度は、元年度に選定した箇所のうち美濃市神洞地区で意向調査を実施するとともに、今後、意向調査を実施する箇所の抽出及び優先順位付けを行います。

また蕨生中山地区においては、今年度中に林業事業体が森林経営計画を策定し、四年度以降、施業が実施される予定です。

今後の課題

意向調査

関市、美濃市とも、昨年度の意向調査は、まずは、所有界が明確でやり易いところで実施しました。

今年度は、両市ともに、市内全域において意向調査を実施する箇所の洗い出しをする予定です。

意向調査を実施するには、所有界が明確である必要がありますが、中濃地域は、全体的に地籍調査が進んでいない地域であることから、今後は、航空レーザ測量等のリモートセンシング技術等を活用した所有界の明確化も併せて進めていくことが必要と考えます。

森林整備

両市とも、昨年度、意向調査を実施した箇所については、森林経営管理権を設定しないで林業事業体が作成する森林経営計画に基づいた森林整備を行うこととしています。

また、森林経営計画に取り込めない森林については、補助事業による森林整備を行うこととしています。

森林所有者から整備の意向のあった森林について、迅速かつ効率的に森林施業を行うには経営管理権を設定しない方法も有効と考えます。

しかし、防災等の観点から、早急な森林整備が求められる森林で所有者が不明な森林については、市が森林経営管理権を設定することも必要と考えます。

地域林政アドバイザーとの連携

中濃農林事務所管内では、関市の平井和子氏、美濃市の鈴木章氏の2名が地域林政アドバイザー（ともに岐阜県地域森林監理士）として活動しています。

森林経営管理制度は新しい制度であり、未知の部分も多いことから、農林事務所としても、両氏と連携して制度の推進を図ってまいります。

▲中濃農林事務所管内打合せ会議

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-4011
中濃農林事務所まで

スマート林業通信 14

林業のVRシミュレーターを導入

林業労働災害の発生防止と森林技術者の技能向上、労働生産性の向上を図るため、森林文化アカデミーにハーベスタシミュレーターと伐木技術教育VRシミュレーターを導入しました。

コロナ禍でお披露目が遅れましたが、6月下旬から操作研修会をスタートしました。

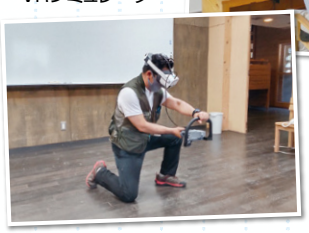
ハーベスタシミュレーターは本物の機械と同じ操作レバーを使用して、バーチャルリアリティの仮想空間で操作技術のトレーニングができます。フォワーダのメニューも選べますので、1台でハーベスタとフォワーダの2種類のトレーニングができます。より現実の空間に近づけるため、プロジェクターとスクリーンを別に購入して大きな画面で操作できるようにしました。

伐木技術教育VRシミュレーターはVRヘッドセットを装着し、チェーンソーの労働災害を疑似体験できます。

当面は森林文化アカデミーの研修会で使用しますが、これらの機器は現場を担当する森林技術者に使ってもらってこそ労働災害の防止や生産性の向上が図られることから、農林事務所や市町村、林業事業体へ貸し出して研修に使ってもらいたいと考えています。

森林文化アカデミーではデジタル機器貸出要綱を定めており、貸出の機器に追加しましたらお知らせしますので、積極的に研修会を企画してください。講師についても気軽にお声かけください。

▲ハーベスタシミュレーター



▼伐木技術教育VRシミュレーター

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林文化アカデミー
スマート林業推進係まで

国有林の現場から 58

飛騨森林管理署の取組について

飛騨森林管理署の取組について紹介します。

●管内概要

当署は東に日本の屋根といわれる飛騨山脈の岐阜県北部山岳地帯（乗鞍岳、御嶽山等）、西に白山といった、標高３千ｍを超える山々に囲まれ、宮・庄川森林計画区として高山市をはじめとする２市１村に広がる約12万ヘクタールの国有林を管理しています。

▲乗鞍岳

管内は、ブナやミズナラの天然林が60％、カラマツ・スギ・ヒノキなどの人工林が30％、山岳地などが10％を占めています。

この地域の森林は、富山県、岐阜県、愛知県の水源林としての機能や山地災害防止などの重要な役割を担っています。

また、飛騨山脈や御嶽山、白山などの山岳地域は、貴重な動植物の生息・生育地域として、観光や登山など森林レクリエーションの場としても広く利用されています。

組織については、本署を高山市に置き、森林事務所（13）、治山事業所（２）を拠点に約40名の職員で管理経営を行っています。

●事業方針

今年度の事業については、公益重視の管理経営の一層の推進のほか、森林・林業の再生への貢献、山村地域の振興と森林の総合利用などを柱として「国民の森林」となるよう管理経営に取り組みます。

①公益重視の管理経営の一層の推進

森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、機能類型に応じた森林整備を推進します。

さらに、荒廃山地の復旧整備や保安林の水土保全機能の強化等に取り組みます。

▲鋼板セル谷止工

②森林・林業の再生に向けた貢献

民有林と連携した森林施業として「高山一色・山中山地域森林整備協定」のほか、岐阜県と連携して市村行政への技術支援などにも取り組みます。

森林整備に係るコスト低減は不可欠となっており、伐採造林一貫作業システムの拡大やコンテナ苗植栽の導入等省力化に取り組みます。

③山村地域の振興と森林の総合利用

地域の伝統産業の育成に資する林産物の安定供給や森林等の整備、地域の教育機関やＮＰＯとの連携等を通じたレクリエーションの森の活性化、野生鳥獣への対策、国有林野の有効活用、人材育成をはじめとした民有林への指導やサポートなど、山村地域の活性化に向けた取り組みを推進します。

▲遊々の森自然観察会

●最後に

「国有林があってよかった」「飛騨森林管理署があってよかった」と地域から評価されるように情報発信・提供に努めて行きます。

（飛騨森林管理署）

「白山白川郷ホワイトロード」イベント情報

山岳有料道路「白山白川郷ホワイトロード」の8月以降のイベントをご紹介します。
限られた期間しか見ることのできない大自然がここにあります。ぜひ、お越しください。

◆イベントカレンダー

月	日	行事名	内容
8	～29(日)	風鈴の奏で	多治見の陶器の風鈴が涼しい音色で皆様をおもてなし
	上旬	星空ウォッチング	ホワイトロードから見える満天の星を観察するツアー ※参加料別途必要
9	25(土)～10/24(日)	秋のモーニングタイム	通常より１時間早く開門し、ゆっくりと紅葉を楽しめる。 雲海や霧虹、滝雲などの幻想的な風景が見られるかも。
10	中旬	第２回「あなたに贈る大自然と音楽」 （色彩ミュージック）	紅葉と音楽を一緒に楽しむ、今年最後の音楽祭
	中旬	雲海写真コンクール	SNSインスタグラムにて雲海写真を募集

お問い合わせ先　白山林道岐阜管理事務所　TEL/FAX 05769-6-1664
https://hs-whiteroad.jp/

【治山課　桂川　亮】

森林・林業関係イベントカレンダー（8～9月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
8月26日(木)～ 8月27日(金)	**木材加工用機械 作業主任者技能講習**	●講習時間　26日～27日　8:30～17:40 ●申　込：開催日の20日前まで ●受講料：17,600円(本代含む)(振込み) ●定　員：30名(定員になり次第締め切ります。)	JA ひだ吉城営農センター 2F（飛騨市古川町上野 571-1） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話　058-275-0192　FAX　058-201-1195
9月6日(月)～ 9月8日(水)	**伐木・チェーンソー 作業従事者 特別教育**	●講習時間　6日　学科　9:20～17:30 7日　学・実　8:50～12:00 8日　実技　8:30～17:40 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ●定　員：50名(定員になり次第締め切ります。)	6日（学科）・7日（学・実） 下呂交流会館（下呂市森 2270-3） 8日（実技） 下呂総合木材市売（下呂市乗政 122-2） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話　058-275-0192　FAX　058-201-1195
9月9日(木)	**刈払機取扱作業者 安全衛生教育**	●講習時間　学科　9:20～15:40 実技　15:50～16:50 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：11,550円(本代含む)(振込み) ●定　員：50名(定員になり次第締め切ります。)	下呂交流会館（下呂市森 2270-3） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話　058-275-0192　FAX　058-201-1195

COLUMN

コラム

私は中津川市役所からの派遣職員として今年度県庁林政課で勤務しております。自治体職員として10年目となりますが、これまでの所属では「税務」や「公共事業の用地取得」を担当していたため、林政に携わるのは全く初めてです。市内加子母地区で伊勢神宮の「式年遷宮」の用材が伐り出されていることなど断片的な知識はありましたが、森林･林業の現状がどうなっているのか、さらには山の木の見分け方すらわからない恥ずかしい有様でした。配属から約3か月が経過し、毎日周りの職員の皆様に教えていただき勉強させていただいています。県での勤務は限られた期間となりますが、出会った皆様とのつながりを大切にしてまいりたいと思います。また先日32歳となりましたが、周りから「まだ結婚しないのか」という声も多くいただいています。新型コロナウイルス感染症など難しい情勢の昨今ですが、そちらのご縁もあればありがたいなと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

「森林のたより」編集委員　田口 雄大

イベント情報　9月1日発行

連載
- 山の歳時記 (193)
- 山のおじゃまむし (362)

地域の人

清流と森と親しむ
- 森林と人を活かす知恵 (104)

木と親しむ
- 岐阜県の公共木造建築 (102)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術
- 研究・普及コーナー

市況情報　その他

9月号予定

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位：円（1㎥当たり）

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1765回 岐阜共販所 7月13日	すぎ	3m	16～18cm	13,500	—	単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格
		4m	16～18cm	12,600	—	
			20～22cm	14,300	—	
			24～28cm	14,200	—	
			30cm以上	13,300	26,000	
		6m	16～18cm	—	—	
	ひのき	3m	16～18cm	27,000	—	
			20cm以上	26,000	—	
		4m	16～22cm	27,500	—	
			24～28cm	22,500	—	
			30cm以上	21,000	—	
		6m	16～18cm	—	—	
第1345回 飛騨共販所 7月7日	すぎ	3m	16～22cm	13,000	—	
		4m	24～28cm	15,000	—	
			30cm以上	15,000	16,800	
	ひのき	3m	16～18cm	27,000	—	
		4m	20～22cm	26,000	29,000	
			24～28cm	26,000	—	
			30cm以上	26,000	48,000	
		6m	16～20cm	26,000	—	
	ひめこ	4m	24～28cm	12,000	—	
			30cm以上	12,000	26,000	
		5m	30cm以上	13,000	15,800	
	くり	4m	24cm以上	15,000	—	
第1676回 東濃共販所 7月8日	すぎ	3m	16～22cm	15,000	—	
		4m	24～28cm	15,000	—	
			30cm以上元	14,000	20,000	
	ひのき	3m	16～22cm	24,000	30,000	
			24～28cm	21,000	36,000	
			30cm以上元	21,000	46,000	
		4m	13cm以下	10,000	—	
			24～28cm	24,000	33,000	
			30cm以上元	22,000	103,000	
		6m	18～22cm	28,000	—	
	まつ	4m	22～28cm梁	5,000	—	
			30cm以上元	6,000	—	

木材市場

【商況】

7月に入り構造材向けは上げどまり感がみられるが、今後続伸の気配あり。市況全般にわたり上げ基調。各需要先、製材は旺盛。今後の市況に留意ください。スギ4m中目、尺上　元木良材は応札多数、選木2番40cm上も強含み。スギ並材3m·4m併せて非常に需要が高く強気。3m（16～22cm）直造材が有利。ヒノキ元木良材30cm上、40cm上強含み。ヒノキ並材3m、土台4m強含み。4m土台取（16～22cm）が人気。合板向けはスギ、ヒノキともに需要旺盛で在庫不足。ラミナ向けも併せて特にスギが強気。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに在庫不足、需要高。（岐阜）

スギ、ヒノキ4m中目·尺上元木良材、柱材3m·土台4mは応札旺盛。大型製材工場、合板工場向けスギ、ヒノキ、カラマツ在庫不足。カラマツラミナ向けも併せて強気。広葉樹は全般的に応札多く特にクリ、ブナについては応札旺盛。（飛騨）

全般的にヒノキ·スギとも並材（16cm～22cm）は、応札旺盛にて強含保合。ヒノキ元木、良材2m·3m·4m（高齢材及び枝打材など（特殊材））には応札旺盛にて保合。ヒノキ並材は3m·4m（16～22cm）は、需要があり価格は上向き気配にて強含保合。スギ並材は3m·4m（16～28cm）は、応札旺盛にて保合。（東濃）

製品卸売標準価格（6月期）

（単位：円）

樹種	用途	寸法（mm） 長	巾	高	等級	m³当り価格	（本（枚）単価）	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	80,000～90,000	（2,646～2,977）	↗
	間柱	3000	105	30	1等	80,000～90,000	（756～851）	↗
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	95,000～100,000	（4,190～4,410）	↗
	柱	3000	120	120	特等	85,000～90,000	（3,672～3,888）	↗
		3000	120	120	（東濃桧）特等	90,000～95,000	（3,888～4,104）	↗
		6000	120	120	特等	130,000	（11,232）	→
Wウッド 集成材	柱	3000	105	105	国産5層	76,000	（2,500）	↗
		3000	120	120	国産5層	75,000	（3,200）	↗

※日刊木材新聞調べ（名古屋標準相場　全てKD材）

外材市況（6月期）

1㎥当り（価格単価：100円）

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	353	米栂	ヘム（アラスカ産）	317
	コースト（目荒）	360～367	米ひば	ポール	342

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場（径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場）

カーボンニュートラル

木材用語一口メモ

植物が光合成によって吸収したCO_2の量と焼却によって排出される量は同じであるため、大気中のCO_2は増減せずプラスマイナスゼロであるという考え方。これが化石燃料の代わりにバイオマスエネルギーを利用することがCO_2排出削減に有効であるという考え方につながっている。

（参考）日刊木材新聞社　木材·建材用語辞典

木材SCM支援システム

MOLINK

もりんく

木材SCM支援システム「もりんく」は林野庁の補助事業により開発されました。

まずは事業者登録（無料）から！

お試し用にゲスト登録もできます。

検索または二次元コードよりアクセスできます。

もりんく 検索　https://molink.jp

無料でPRページが作成可能
事業者情報を登録することで、事業や製品のPRページとしてご活用いただけます。

事業者を検索
取引先を地域や製品等から検索しコンタクトをとることができます。

便利な業務ツール
木材関連事業者の業務で使える表計算シートや統計資料等をダウンロードできます。

コミュニケーション
事業者間の需給情報共有や取引に関するコミュニケーションを掲示板やチャットでできます。

岐阜県サプライチェーンマネージメント推進フォーラム（事務局：岐阜県木連内）TEL 058-271-9941